



～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

夢中になる姿

長浜市教育委員会事務局
教育改革推進室長 成田 健

私の趣味の一つに「魚釣り」があります。小学生のころからの楽しみで、小中学生のころは、週末になると近くの川や琵琶湖でフナやコイをねらっていました。仕事を始めてからは、海釣りを楽しんでいます。

子どもが小学生になったころからは、子どもたちと一緒に行きました。初めは、道具や仕掛けの準備から、エサを付けたり釣れた魚を針から外したりするまで私の担当の至れり尽くせりの釣行でした。しかしながら、慣れてくると自分で準備をしたりエサを付けたりするようになり、私自身も少しずつ釣りを楽しめるようになりました。

基本的に堤防から豆アジをねらっていました。6本ほどの針がついている仕掛けを使って、小さなエビをまき、アジを寄せて釣るサビキ釣りから始めました。初めは1匹釣れると大騒ぎで喜んでいました。が、群れが来ると2、3匹が同時に釣れることがあり、さらに大興奮。

すると、子どもたちはどうしたと思われますか。

子どもたちは、1匹の豆アジがかかっても上げなくなりました。6本の針すべてに豆アジがかかるのをねらうようになったのです。さっきまで1匹釣れて喜んでいた子が、2、3匹では満足できない状況となり、200匹以上の豆アジなどを釣りました。

釣って帰ってからは、釣れた豆アジを唐揚げにして、おいしくいただきました。唐揚げにするのも私の役割でしたが、おいしさに魅了され、興味を持ったのか、調理も子どもたちが手伝ってくれるようになりました。揚げたては格別です。自分が釣った魚ですから。

最近、高校生になった息子と釣りに行くのですが、変化が見られます。「より大きい魚を釣りたい」「周りの釣り人がしている釣りをしてみたい」という思いが出てきたようで、自分なりに工夫をしています。より遠くへ

飛ばせる仕掛けに挑戦したり（私がセットするのですが）、エビを針につけたり（サビキ釣りでは針にエサを付けないのですが）して楽しんでいます。

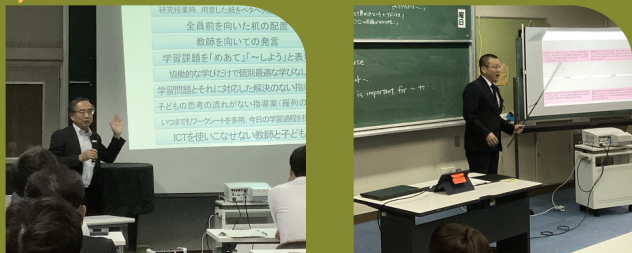
帰ってからの調理にも変化が見られ、少し大きいアジを三枚におろして、刺身やなめろうにしようとしています。その時は、スマホで魚のさばき方の動画を参考に挑戦していました。感心するほどの集中力で、心から楽しんでいるようでした。真剣に楽しむ彼の姿を見て、うれしく思っていました。

長浜市各校で取り組んでいる「子どもを主語にした授業『長浜スタイル』」につながるところがあると思い、紹介させていただきました。もちろん、趣味と授業はちがいます。授業づくりでは、教科、単元、一時間において、目標や子どもにつけたい力を明確に持ち、子どもが主体的に学べるよう組み立てていただいているところです。

令和5年度から鳴門教育大学院 藤村裕一教授に授業改善やICT活用に関わる研修会でお世話になっていきます。それらの研修会資料には、「子どもが夢中になって深める授業づくりを楽しむ『教師の遊び心』」とあり、藤村教授は「先生方が授業改善を楽しんでください。」と話されていました。また、同じスライド資料には、「授業論・学び方指導（学習方法論）のプロであること」「教科教育のプロとして、学習指導要領に精通し、深い教材研究をしていること（学習内容論）」も示されていました。

今後も、子どもが夢中になって学ぶ姿を増やすため、深い教材研究のもと、先生方の遊び心も生かしながら「子どもを主語にした授業づくり」をさらに進めていきたいと考えています。授業改善そして思い切った実践に、ともに挑戦していきましょう。

ICT教育推進教師養成講座～びわ湖東北部地域連携協議会～



ICT教育推進教員養成講座は、彦根市・米原市・長浜市の3市で実施しています。今年度は、夏の小学校教職員研修会でもお世話になった藤村 裕一先生（鳴門教育大学院教授・文部科学省ICT活用アドバイザー）を講師にお迎えし、年間3回の研究授業と研修会を実施してきました。

第2回の講座は長浜市立西中学校の北川 翔太 教諭に英語の授業をご提供いただきました。

子どもが主体となる授業についての協議や藤村教授からは「ICTを活用した『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』」を成功させるポイントについてご指導いただきました。

研修後にも、質問が途絶えない大変有意義な学びの機会となりました。

他教科、他校でどのようにiPadを活用されているかはとても気になっていたのですが、今回の参観はとても学びになった。思っていたよりずっと生徒は上手にプレゼンテーションができていて、その資料も効果的に作られていた。日頃の先生方のご指導の賜物だと感じた。

教科や単元によって、知識技能を身につけさせる授業にするのか、問題発見や解決能力を身につけさせたいのかなど、授業によって生徒に身につけさせたい力を見越して授業を練ることがとても大切であると考えた。

個人内で目標を設定し、それに対しての振り返りをロイロノートでしていることが印象に残っている。自分たちでスムーズに取り組んでいることに驚いた。積み重ねの大切さを感じた。

令和6年度 教育研究発表大会について

今年度も会場とライブ配信で所属校からご参加いただく、ハイブリッド研修で開催いたします。教育講演会では昨年度に引き続き、工藤 勇一先生にご講話いただきます。ともに学びあえることを心より楽しみにしております。

皆様のご参加をお待ちしております。

日時：令和7年2月19日（水） 13：30～16：20

会場：浅井文化ホール・所属校

内容：《研究発表》 園小接続カリキュラム実践研究
～園小教職員のつながりを深め、子どもの豊かな学びを未来へつなぐ～

《教育講演会》 講師 工藤 勇一氏
演題 子どもの自律を支える学校経営
～生徒指導の手法・保護者対応～



園小接続カリキュラム実践研究(2年次)



「タテ」と「ヨコ」の交流活動 ～幼児教育と小学校教育の滑らかな接続のために～

★幼保交流～ヨコのつながり～

研究指定園となっている北郷里幼稚園とさくらんぼ保育園では、小学校との「タテのつながり」だけでなく、幼・保の「ヨコのつながり」も意識した交流活動を実践されています。交流の目的として、他園(所)の子どもたちと交流することで、同世代のさまざまな友だちと関わる機会を設け、人とつながる力を育てること。また、保育者同士が交流し、他園の教育・保育実践にふれ、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続について共有し、そのための協力体制をとるなどがあり、交流する機会を数多く設けられています。

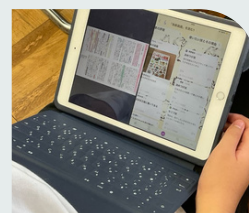
★幼保小交流～タテのつながり～

1 1月、北郷里小学校1年生が北郷里幼稚園3・4・5歳児、さくらんぼ保育園5歳児を学校に招待する交流活動を行いました。1年生生活科の単元を学習する中で、「おもちゃ屋さん」を開いて園児を楽しませたいという子どもたちの願いが、両園児との交流につながっていきました。子どもたちの願いの背景には、5歳児の頃に自分たちが「してもらった」という経験があります。継続した幼保小の「タテのつながり」が子どもたちの学びや育ちにつながっています。1年生の子どもたちは「どうしたら園児たちを楽しませることができるか」という課題を解決するために、言葉で互いの思いや考えを伝え合い、同じ目的に向けて生き生きと活動していました。園児たちも、最初は慣れない環境で少し緊張した表情でしたが、1年生のお兄さん、お姉さんとの交流をとても楽しんでいました。

「自分の考えを表現する力」を高める 国語科の授業づくりに関する研究(1年次)

浅井小学校6年生 研究実践授業 岡 佑香 教諭

「日本文化の良さを、中学校のALTに伝えよう」という必然性のある言語活動を設定することで、子どもたちが相手を想像しながら主体的に学びに向かう姿勢が生まれていました。またICT機器を効果的に活用されていました。例えば、筆者の工夫をまとめる際には、まずはiPadのPadlet（チャットアプリ）に書き込みます。工夫を考える際の視点を学級全体に共有することができ、自分の考えを分析・整理して表現する際に有効でした。また、モデル動画を活用して交流の仕方を視覚化することで、筆者の工夫を自分の伝えたい日本文化でも活用できるように友だちと話し合っている姿がありました。



永原小学校2年生 研究実践授業 後藤 弘毅 教諭

「お家の人の仕事をインタビューしてクラスのみんなに伝えよう」という必然性のある言語活動を設定することで、私のお家の人の仕事を友達に知ってほしい！もっとお家の人の仕事を知りたい！という主体的に学びに向かう姿勢が生まれていました。また、ICT機器を効果的に活用されていました。例えば、大型画面に児童一人ひとりの写真とお家の人の仕事をセットで映すことで、この仕事についてもっと聞きたいから、Aさんと話したいという主体的に学びに向かう姿がありました。また、モデル動画を活用して交流の仕方を視覚化することで、初めて知ったことや驚いたことについてスムーズに話し合う姿がありました。友だちからの質問を受けて、「お家で聞いてくるよ。」と学校での学習が家庭での学習に続いている姿がありました。



こどもサポートルーム なないろ

人気のボードゲーム紹介

現在、こどもサポートルームなないろには市内の9校の中学校から33名、7校の小学校から14名の通室生が通っています。今回は、なないろでおこなっている活動のひとつ、「SST・ゲーム活動」から、人気のゲームを紹介します！ゲーム活動は、学習要素のあるゲームを通して学んだり、やりとりを通して対人スキルを養ったりと、個の課題に応じたトレーニングの時間としてとても大切な時間です。

小・中学校、義務教育学校の先生方、職員研修に『ゲーム研修』はいかがですか？



人気No.1 ラミーキューブ

小学校高学年～中学生に特に人気が高いのが「ラミーキューブ」
1～13までの4色のタイルを使って対戦するゲーム。場に出されたタイルを自由に組み替えながら手持ちのタイルを出していきます。



お宝ゲット！ ラビリンス

うまくカードを動かして道をつなぎ、お宝ゲットを目指すゲーム。
人気があり、オーシャンやジャパン、3Dラビリンスなど、シリーズも多数あります。

ほかにも...



～なないろの新しい活動紹介～

なないろDAY

普段の通室は個別指導を基本としていますが、小集団での活動を目的として月に1～2回、通室生を対象とした『なないろDAY』というイベントをおこなっています。



10月の活動では、ハロウィンの工作をしました。



参加人数は回によってまちまちですが、それぞれが自主的に決めた時間に来て活動しています。初めは緊張した面持ちの子どもたちですが、作業やゲームなどを通じて交流ができるようになり、集団での活動に自信を持てるようになっていきます。



11月の活動では、マジックショーを見ました。